

○杉山 雄一¹, 前田 和哉²

¹理化学研, 横浜, ²東大院薬

薬物トランスポーター(TP) は薬物の吸収、分布および排泄に重要な役割を果たす。最近では、TP の遺伝子多型(PGx)、TP 介在性の薬物相互作用 (DDI) について、多くの研究が発表されている。本発表では、TP 介在性の薬物消失について、“拡張クリアランスコンセプト”および“生理学的薬物動態 (PBPK) モデル”を用いた解析の重要性を示す。こうした解析により DDI や PGx により誘起される TP 機能/発現量の変化が薬物動態に与える影響、さらには、薬効・副作用への影響を予測することができる。本シンポジウムへの参加者は、複数のメカニズム (取込み / 排泄 TP と代謝酵素) が同時に関わる DDI 解析において PBPK モデルを使用することの重要性を理解することができる。